



# 株式会社セック

**S**ystems **E**ngineering **C**onsultants Co.,LTD.

<https://www.sec.co.jp/>

銘柄コード：3741

## 2022年3月期 決算補足説明資料

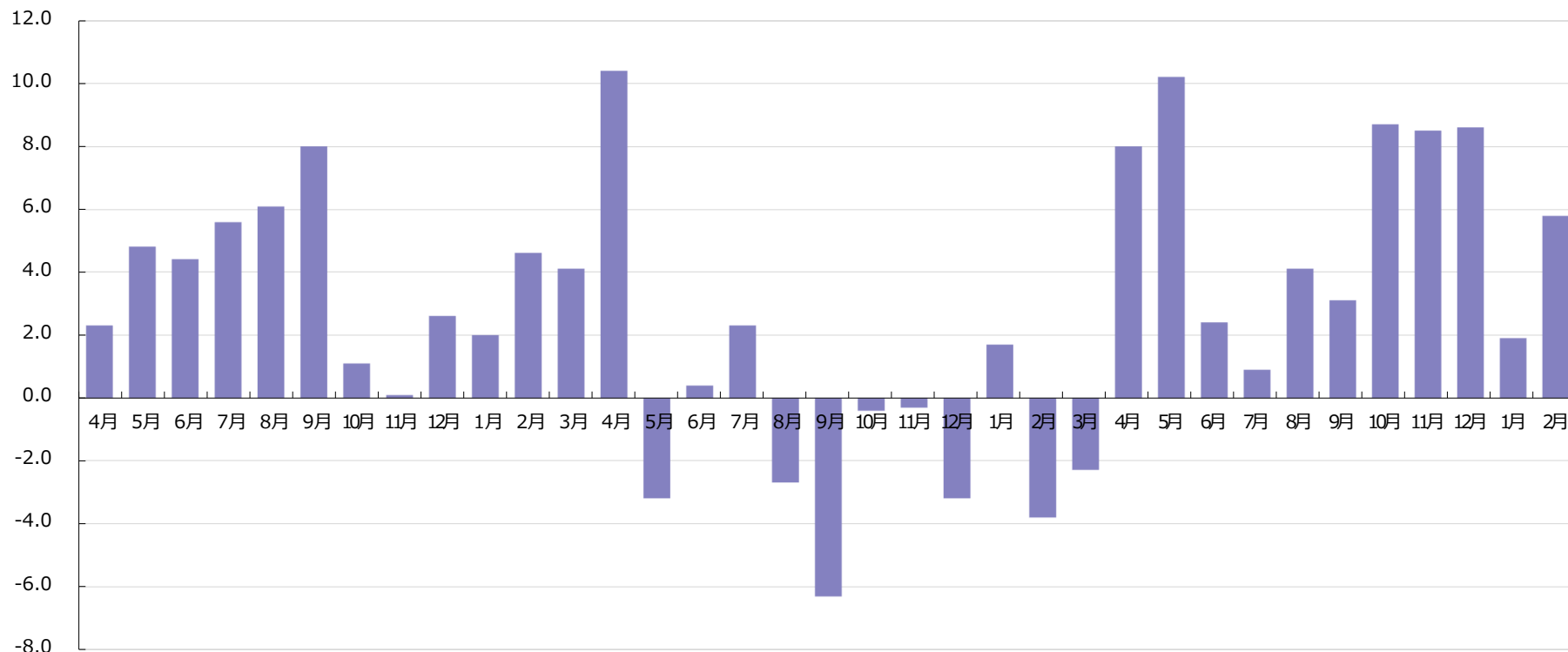
2022年5月12日

# 2022年3月期 決算概要

## 2022年3月期の事業環境

情報サービス業売上高前年同月比推移（経済産業省：特定サービス産業動態統計）

単位：%



2021年4月以降の前年同月比の月別売上高は、前年の新型コロナウイルス感染症による影響の反動で、増加または前年同月並みとなっている。

# 2022年3月期総括

## 売上高、営業利益、経常利益の全てで過去最高、前年同期比で5期連続の増収増益

売上高	: <u>6,560</u> 百万円	前期比	0.5%増		
営業利益	: <u>1,062</u> 百万円	前期比	5.1%増	利益率	16.2%
経常利益	: <u>1,107</u> 百万円	前期比	5.0%増	利益率	16.9%
当期純利益	: <u>780</u> 百万円	前期比	7.2%増		

## 受注高、受注残高ともに過去最高、前年同期比で受注高は7期連続の増加

受注高	: <u>7,193</u> 百万円	前期比	6.7%増
受注残高	: <u>3,197</u> 百万円	前期比	24.7%増

## 先端技術を窮め、オープン・イノベーションで事業成長を目指す

- ・ 移動体通信事業者向けの開発が大幅に減少し、官公庁向けの開発やインターネット分野の民間企業向けの開発が増加するなど、需要構造の変化が継続した。
- ・ 上期は主要顧客である移動体通信事業者向けの開発が予想を上回って減少したため、減収減益となったが、下期以降に業績が回復し、通期で増収増益となった。
- ・ 商談状況も下期以降に好転し、受注高は通期で過去最高となった。

# 損益計算書

	2021年3月期 (百万円)	2022年3月期 (百万円)	前期比 (%)	期初予想 (百万円)	計画達成率 (%)
売上高	6,525	6,560	100.5	6,700	97.9
売上原価	4,676	4,585	98.0	4,720	97.1
売上総利益	1,849	1,974	106.8	1,980	99.7
販売管理費	838	912	108.9	930	98.1
営業利益 (営業利益率)	1,011 (15.5%)	1,062 (16.2%)	105.1	1,050 (15.7%)	101.2
経常利益 (経常利益率)	1,054 (16.2%)	1,107 (16.9%)	105.0	1,090 (16.3%)	101.6
当期純利益	727	780	107.2	750	104.0

売上原価 外注費が減少 (外注費 19.5億円、前期比5.5%減/売上高外注比率29.9%、前期31.8%)

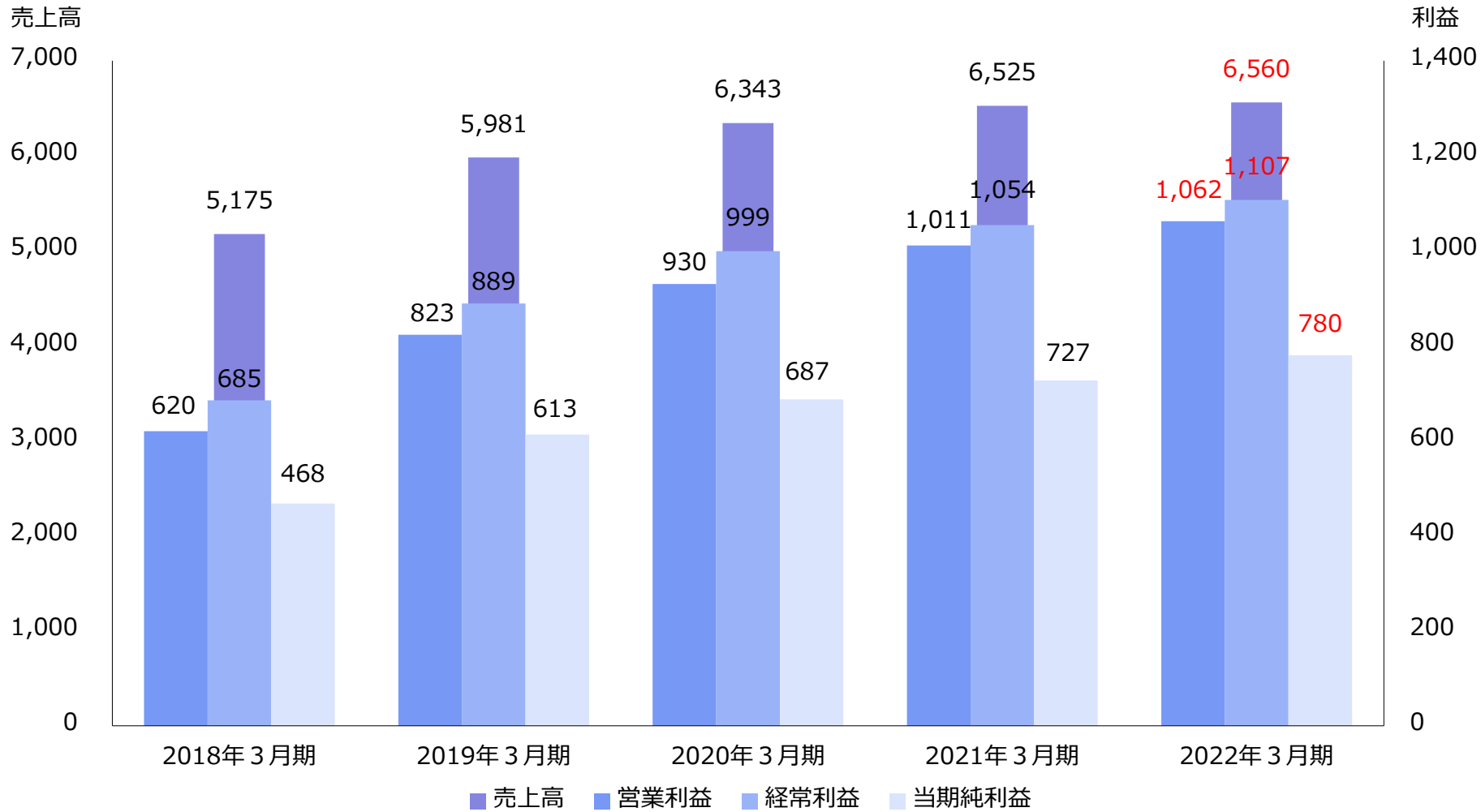
販売管理費 新入社員の増加、それに伴う教育体制の強化により労務費が増加、また研究開発費も増加 (研究開発費は53百万円で、前期比で10.4%増加)

当期純利益 新入社員の増加による税額控除で法人税負担率が下がり、営業利益・経常利益より増加幅が拡大

# 決算業績推移（過去5年）

5期連続の増収増益で、売上高、利益ともに過去最高

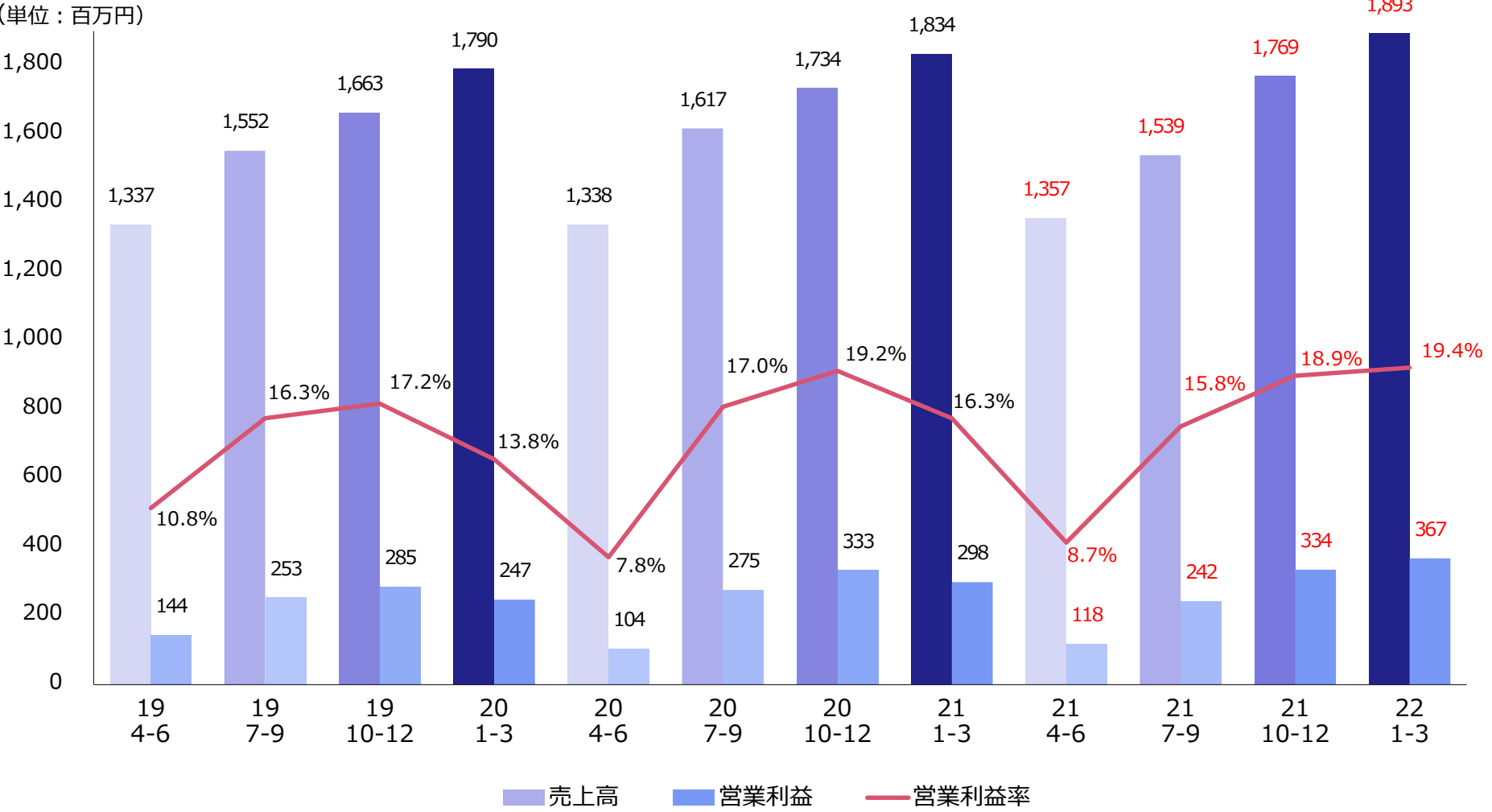
(単位：百万円)



# 四半期業績推移 (P L)

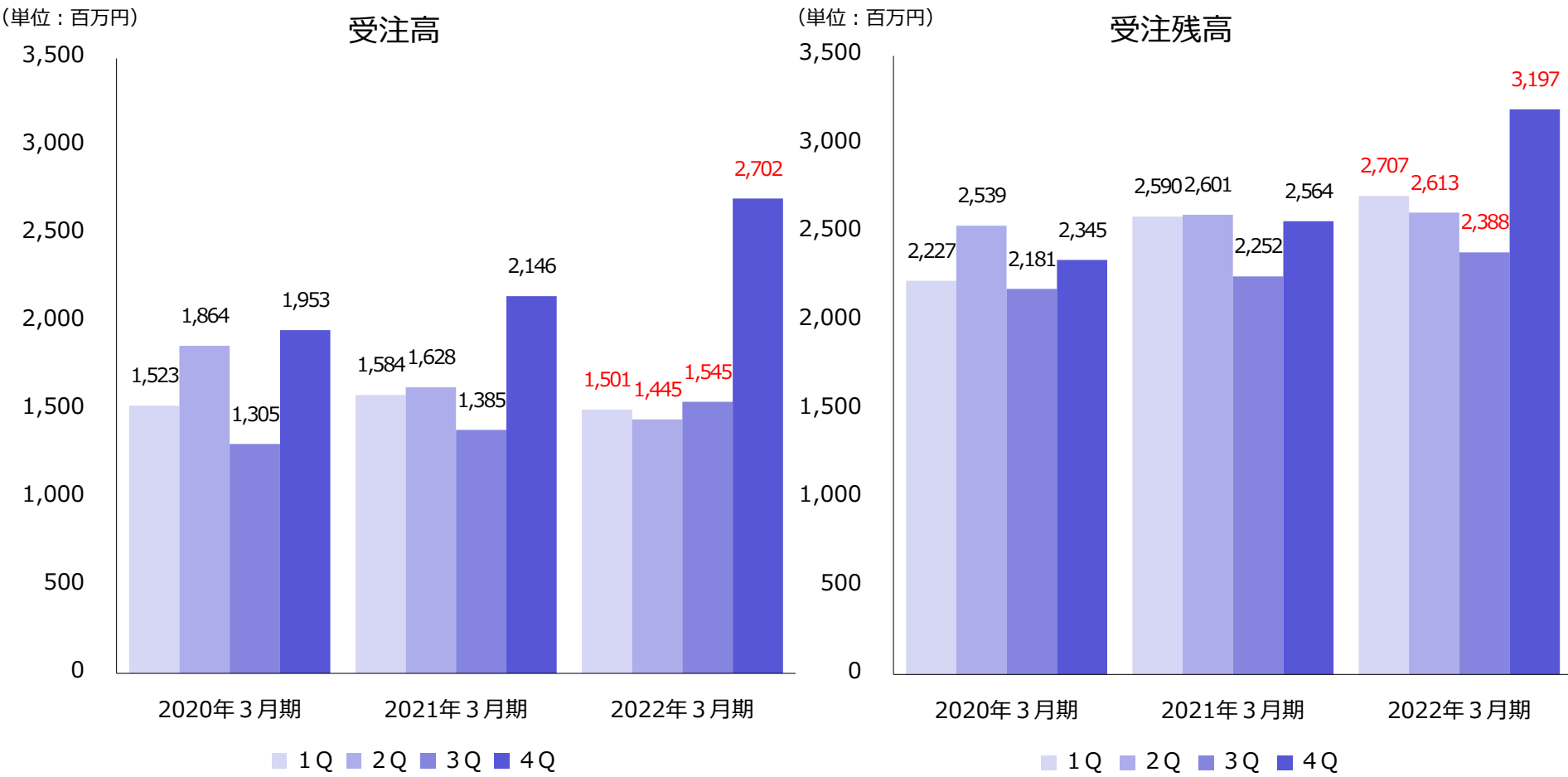
今期は対前期比で第2四半期以外は増収増益

(単位：百万円)



# 四半期業績推移（受注状況）

受注高は第3・第4四半期で過去最高、受注残高は全ての四半期で過去最高





# BF別の状況

## インターネットBF、社会基盤システムBFが大幅に増加

ビジネスフィールド	2021年3月期		2022年3月期		
	売上高 (百万円)	構成比 (%)	売上高 (百万円)	構成比 (%)	前期比 (%)
モバイルネットワーク	979	15.0	641	9.8	65.5
インターネット	1,042	16.0	1,232	18.8	118.2
社会基盤システム	1,987	30.4	2,218	33.8	111.6
宇宙先端システム	2,516	38.6	2,467	37.6	98.1
合計	6,525	100.0	6,560	100.0	100.5

- モバイルネットワークBFは、移動体通信事業者向けのサービス系の開発が大幅に減少
- インターネットBFは、民間企業向けの開発が増加
- 社会基盤システムBFは、官公庁向けの開発が引き続き堅調
- 宇宙先端システムBFは、車両自動走行の研究開発案件は堅調だったが、通信事業者向けのサービスロボットの大型案件や宇宙天文分野の大型案件の開発が前期に終了したため減少

# B F別構成比

## 社会基盤システムB FとインターネットB Fが増加

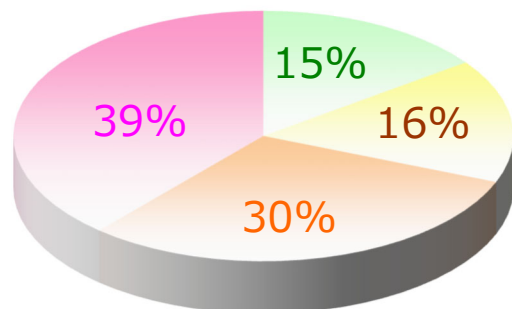
### 宇宙先端システムB F

車両自動走行の研究開発案件は堅調だったが、通信事業者向けのサービスロボットの大型案件や宇宙天文分野の大型案件の開発が前期に終了したため減少

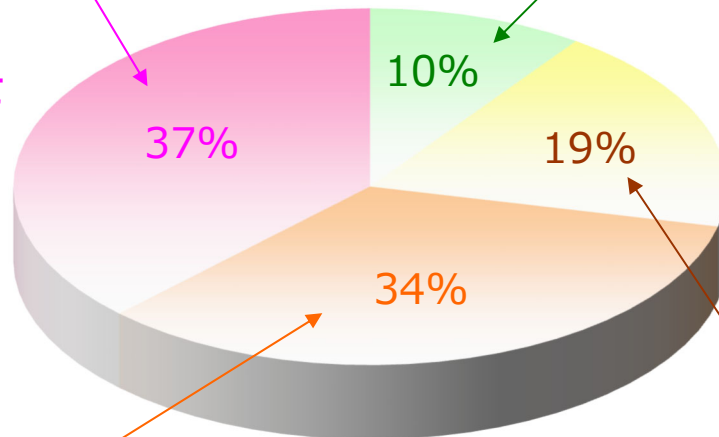
### モバイルネットワークB F

移動体通信事業者向けのサービス系の開発が大幅に減少

需要構造の変化に応じて  
柔軟に対応



2021年3月期



2022年3月期

### 社会基盤システムB F

官公庁向けの開発が引き続き堅調

### インターネットB F

民間企業向け開発が増加

# B F 別受注状況

## 社会基盤システム B F が大幅に増加

ビジネスフィールド	2021年3月期		2022年3月期			
	受注高 (百万円)	受注残高 (百万円)	受注高 (百万円)	前期比 (%)	受注残高 (百万円)	前期比 (%)
モバイルネットワーク	839	159	728	86.7	246	154.1
インターネット	1,116	367	1,156	103.6	290	79.2
社会基盤システム	2,282	1,455	2,766	121.2	2,004	137.6
宇宙先端システム	2,506	581	2,543	101.5	656	113.0
合計	6,744	2,564	7,193	106.7	3,197	124.7

(受注残高のうち、今期の売上高に貢献するのは2,639百万円、前期(2,062百万円)と比較し28.0%の増加)

- モバイルネットワークBFは、移動体通信事業者向けのサービス系の開発が減少したため、受注高は大幅に減少
- インターネットBFは、民間企業向けの開発が増加したため、受注高は増加
- 社会基盤システムBFは、官公庁案件が増加したため、受注高は大幅に増加
- 宇宙先端システムBFは、車両自動走行を含めたロボットの研究開発案件や宇宙天文分野の開発が堅調で、受注高は増加

# ロボットビジネスの状況

**実績 (2022年3月期 売上高約 1,662百万円)**

← 前年同期約 1,712百万円 ← 前々年同期約 1,410百万円)

**車両自動走行は前期並み、サービスロボットの研究開発案件は大型案件が終了し減少**

- 大手自動車メーカーからの車両自動走行の研究ソフトウェア案件が堅調  
⇒ 但し、車両自動走行に関連したモビリティサービスやAIなどの研究開発案件は計画変動により減少
- サービスロボットの研究開発案件は、大手自動車、重工、機械、電機、建築、国の研究機関などが堅調だが、通信事業者向けの大型案件が前期に終了したことにより減少  
⇒ 技術的には、システムエンジニアリング、ROS・RTM（ミドルウェア）などの標準化技術、自社製品ソフトを使った製品適用開発案件が主流  
⇒ 分野的には、無人搬送車、船舶、ドローン、警備、産業用ロボット、宇宙ロボット、農業など広範囲  
⇒ 顧客層の拡大傾向は継続

**今後の方針 実用化に向けて、全方位でチャンスを見逃さない**

**3つの強みで展開**

- ロボットソフトウェアインテグレーションビジネスの推進  
⇒ ロボット標準化技術、試作機、製品化・実用化（ラストワンマイル）、教育、コンサルなど
- 製品適用ビジネスの推進  
⇒ 自律移動ソフト(Rtino)、コンピュータビジョンソフト(Rtrilo)、機能安全ソフト(RTMsafety)など  
製品+α（複数台制御、開発、教育、コンサルなど）のビジネス
- ソフト会社の特徴を活かしたロボット高付加価値化ビジネスの推進  
⇒ ロボット+α（エンジニアリング、AI、MR、画像認識、RaaSなど）のビジネス

# 2023年3月期 通期業績見通し

# 2023年3月期業績見通し

## 成長への投資を優先し、利益は微増の計画

(単位:百万円)

	2022年3月期 実績	2023年3月期 業績予想	前期比 (%)
売上高	6,560	6,950	105.9
売上原価	4,585	4,890	106.6
売上総利益	1,974	2,060	104.3
販売管理費	912	990	108.5
営業利益 (営業利益率)	1,062 (16.2%)	1,070 (15.4%)	100.7
経常利益 (経常利益率)	1,107 (16.9%)	1,130 (16.3%)	102.1
当期純利益	780	785	100.6

売上高 受注残高が前期を上回っているため、前期比約6%増の計画

売上原価 社員数増加による人件費の増加、イノベーション促進のための投資（増床、設備投資）により増加を見込む

販売管理費 研究開発への投資、増床による家賃の増加などを見込む

営業外損益 国の研究機関からの受託研究による補助金収入により増加を見込む

当期純利益 2022年3月期に適用のあった税額控除がない前提で、微増を見込む

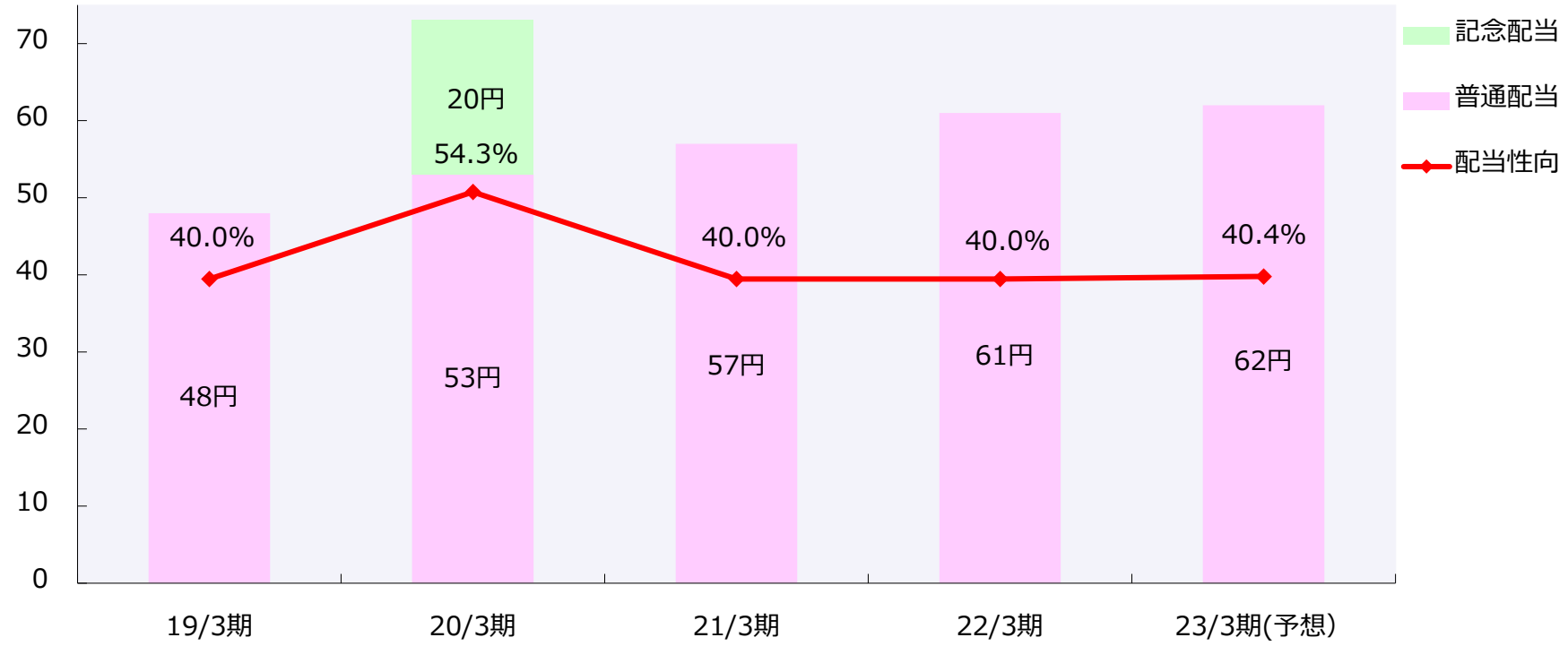
# 2023年3月期B F別業績見通し

モバイルネットワークB F、社会基盤システムB F、宇宙先端システムB Fが増加する見込み

ビジネスフィールド	期初の想定	予想
モバイルネットワーク	移動体通信事業者向けのサービス系などの開発が回復基調となり、増加を見込む	➡
インターネット	非接触 I C を利用した行政の電子化に関する開発が期待できるが、他の B F との人員配分の最適化により、減少を見込む	➡
社会基盤システム	官公庁系の開発が引き続き堅調で、増加を見込む	➡
宇宙先端システム	車両自動走行を含めたロボットの研究開発案件が堅調、宇宙天文分野の開発も堅調に推移し、増加を見込む	➡

# 配当の方針

- 当面、配当性向は40%を目安とする。
- 2023年3月期は1株当たり62円の配当予想とする。



- この資料の目的は、当社へのご理解を深めていただくためのIR情報をご提供することであり、投資の勧誘を目的としたものではありません。投資につきましては、ご自身でご判断願います。
- この資料には、当社の現在の計画、戦略、将来の業績に関する見通しなどが記載されております。こうした記述は、当社の将来の業績を保証するものではなく、経営環境をはじめ、さまざまな外部的要因の影響等により変化しうることをご承知おきください。
- この資料の作成に際しましては、細心の注意を払っておりますが、内容につきましていかなる保証を行うものでなく、この資料を使用したことによって生じたあらゆる損害などについて、当社は一切責任を負うものではありません。